

国際化学肥料ニュース（2024年1月）

肥料業界の2024年1月動態

- * インド NFL 社が12月21日に発表された尿素の国際入札は1月4日に締め切りされた。21社が入札し、応札量271.73万トン、そのうち西海岸向けは158万トンである。最低応札価格はCFR西海岸316.8ドル/トン、CFR東海岸329.4ドル/トン、前回10月20日に開札されたインド IPL 社の尿素国際入札の最低応札価格より75~83ドル/トンも安くなった。NFL社は50~100万トンを契約する予定である。

- * 2024年1月第1週（1月1~7日）の尿素国際相場はインド NFL 社の尿素国際入札と紅海航路運賃の大幅上昇の影響により、若干上昇した。特に廉価のロシア産尿素は紅海航路の不穏と運賃上昇でインド NFL 社に供給することが困難になるという見方が多い。1月5日にインドネシア Pupuk 社の尿素販売入札では前回に比べてFOB価格が約5~10ドル/トン上がった。

- * 中国の化学肥料業界はアフターコロナ後の国内経済低迷により、業績不振に陥っている。中国国内上場している31社の肥料メーカーから公表された2023年1~9月の業績では、売上高と利益が増加しているのは4社しかなく、ほかの27社は業績が悪化し、そのうち6社が赤字を計上している。売上高と利益が増加している4社は3社が肥料事業ではなく、ほかの事業が好調で、肥料事業の不振をカバーしたという。

- * 2024年1月第1週（1月1~7日）のりん安（DAP、MAP）国際相場は昨年12月から続いている中国のりん安輸出規制による品不足で若干高騰している。その代表とするアメリカ FOB Nola のDAP価格が12月下旬の570~580/トンから575~585ドル/トンに上昇し、MAPが615~620ドル/トンから620ドル/トンに上がった。CFRブラジルのMAPが560ドル/トン、CFRアルゼンチンのMAPも580~590ドル/トンに上昇した。

サウジアラビアのMa'aden社は非常に活躍で、1月に20.3万トンDAPと11万トンMAPを輸出する予定。その内訳はCFR595ドル/トンでインドに9万トン、CFR620ドル/トンでタイに1.5万トン、パキスタンに2.5万トン、CFR595ドル/トンでケニアをはじめの東アフリカに2.5万トンDAPを販売したほか、政府間の約束でバングラディシュに4.5万トンDAPを輸出する。また、オーストラリアに11万トンMAPを販売した。

ほかにモロッコのOCP社はFOB550~560ドル/トンでオーストラリアに5.5万トンMAP、ヨルダンのJPMC社はアメリカに5.5万トンDAPを販売した。

- * 1月4日に開札されたインドNFL社の尿素国際入札は、最低応札価格（CFR 西海岸 316.8ドル/トン、CFR 東海岸 329.4ドル/トン）で64.7万トンを契約することになる。そのうち西海岸向け15万トン、東海岸向け49.7万トン。一部の中東業者はCFR 西海岸 316.8ドルが安すぎて、提供しないことを決めた模様、東海岸向けの尿素にはロシア産尿素約35万トンが含まれている。

- * 1月第2週（1月8～14日）の尿素国際相場は急上昇した。黒海、エジプトの大粒尿素のFOB価格が約40ドル/トンも上昇し、FOB中東やCFRブラジルも15～20ドル/トン上がった。その理由はインドの尿素国際入札が中東と北アフリカ尿素メーカーの安い在庫分をほぼ消化したほか、紅海の運行状況がイエメンのフーシ武装勢力の襲撃でさらに悪化し、海運賃が大幅に上がったことである。

- * 中国税関の速報によれば、2023年12月中国化学肥料輸出量234万トン、その内訳は尿素34万トン、硫安93万トン、DAP37万トン、MAP12万トン。2023年の年間化学肥料輸出量が27.3%増の3150万トン、そのうち尿素が50.3%増の425万トン、硫安が11.5%増の1377万トン、DAPが40.7%増の504万トン、MAPが0.3%増の204万トン。
一方、2023年12月中国化学肥料輸入量141万トン、その内訳は塩化加里128万トン、NPK化成肥料10万トン。2023年の年間化学肥料輸入量が46.5%増の1309万トン、そのうち塩化加里が45.8%増の1157万トン、NPK化成肥料が73.6%増の121万トン。塩化加里輸入量が1000万トンを超えたのは初で、最近10年間（2013～2022年）の年間平均輸入量786万トンに比べて、大幅の増加である。

- * 2024年1月第2週（8～14日）のりん安（DAP、MAP）国際相場は安定している。インドは政府の2024～2025肥料年度補助金の決定を見守って、輸入に関する商談がなかった。中国政府はりん安の輸出規制を強化しているため、タイに6000トンDAPの輸出に留まった。中国りん安の輸出が困難になったため、ベトナムはロシア品、オーストラリアはサウジアラビア品に注目して、ブラジルなど南米諸国はさらにモロッコ品に傾ける。

- * インド与党は第2四半期に予定されている総選挙に備え、例年より早めに1月末か2月初めに2024～2025年度のりん安補助金を決定し、同時に輸入業者に輸入許可を発行するとの報道がある。現在インドのDAP在庫量190万トン、例年より若干多いが、それでも国営RCF社が新しいりん安の国際入札を計画している。

* 1月第3週（15～21日）の尿素国際相場は大きく上昇し、中東尿素的の FOB 価格が 350 ドル／トンを超えた。相場の週間上昇幅の大きさは 2023 年 8 月から約 6 ヶ月ぶりのことである。主な要因は、東南アジアの供給減少と中国の尿素輸出規制が続いていることである。ペトロナス・ビントゥル工場の計画外メンテナンスやグルン工場の計画的改修によりマレーシアの供給が減少する一方、インドネシアは積極的に輸出に乗り出せず、オーストラリアから輸入需要など、アジア全体の品不足が明らかに表れた。

他の地域では、バイヤーが製品の確保に積極的に取り組んだため、CFR ブラジルとアメリカ湾岸の価格も上昇した。アメリカでは、春シーズンの需要に先駆ける輸入に注目している一方、ブラジルのバイヤーは今シーズンの直前購入に力を入れている模様。EU では価格が上昇したが、旺盛な需要はまだ現れていない。今週主要な積極的な買い手となったのはイタリアだけで、他の地域は流通量が限られプレシーズンポジションを改善しただけだった。

* EU の硝酸系肥料市場に活況の兆しが見られる中、アメリカの CF Industries 社はイギリスで硝安の価格を引き下げることがを表明した。昨年 12 月上旬、CF Industries 社は硝安の今年 2～3 月出荷分価格を CPT（運送費込みの価格）370～375 ドル／トンにすることを通達したが、新しい通達では 3～4 月の出荷分について、CPT は前払いの 5 ドルの割引を含む 320 ドル／トンに値下げした。その主な理由は原料天然ガスの値下がりである。

* 1月第2週（8～14日）の中国硫安価格が若干上昇した。その引き金は尿素的の国際相場の上昇であるほか、中国の厳しい尿素輸出制限で需要が硫安に集中している。中国カプロラクタム副生硫安は FOB135 ドル／トンで 6000 トンをブラジルに販売したほか、インドから 2 万トン、トルコから 2 万トン、パキスタンから 2.5 万トン、ベトナムから 6000 トン、韓国からも 6000～8000 トンの商談があるようだ。プリケット粒状品については、FOB140 ドル／トンでアフリカに 5 万トン、FOB140～145 ドル／トンで 6000～8000 トンで南米に輸出した。

* インド新聞の報道によれば、イエメンのフーシ組織による紅海での船舶攻撃害によりインドの化学肥料輸入に大きな支障が出て、5 月からの kharif シーズンに化学肥料不足の恐れが発生する可能性が高くなる。

インドが毎年ヨルダンから約 60 万トンりん酸、370 万トンりん鉱石と 50 万トン塩化加里、イスラエルから 50 万トン塩化加里を輸入する。また、中東とロシアからも 200 万トン以上の尿素的を輸入する。紅海に発生した船舶の襲撃事件により、イスラエルの荷物は勿論のこと、ヨルダンの荷物を積載する船も紅海での運航を拒否している。昨年 11 月以降すでに 10 万トン以上の化学肥料を輸入できなくなっている。

- * 1月第4週（22～28日）の尿素国際相場は4週連続上昇した。中東と北アフリカ、黒海、アメリカおよび東南アジアは尿素有値上がり幅が大きくなり、FOB 価格が400ドル/トンに近づいている。特にエジプトとナイジェリアの荷捌きが活発で、12月末に比べ、FOB 価格が30～50ドル/トンも上昇した。今月に入ってからエジプトはすでに20万トン以上の尿素有販売し、ナイジェリアも2月出荷の3万トン尿素有販売した。アメリカ、EU、オーストラリアと東南アジアは春シーズンの需要に備え、尿素有購入する動きが活発となり、2月の尿素相場が引き続き上昇するまたは高止まりの可能性が高いと専門家が見ている。
- * BelTA 通信社からの報道によれば、ベラルーシの駐インド大使 Andrei Rzheusky 氏は2024年にインド向けの塩化加里輸出の再開を実現する可能性が高いと述べた。2021年前にインドの輸入した塩化加里の約20%はベラルーシからのものだが、2021年から始まったベラルーシへの経済制裁によりその輸入が止まっている。
- * ロイター通信によると、インド政府は2024～2025年度（2024年4月～2025年3月）に食品と化学肥料の補助金として4兆ルピー（約480億ドル）を支出すると報道した。その内訳は食品補助金2.2兆ルピー（約265.2億ドル）、前年度より10%の増額、化学肥料補助金1.75兆ルピー（約211億ドル）、前年度より13.5%の減額。食品と化学肥料の補助金はインド政府の年度総予算の約11%を占める。
- * 1月第5週（1月29日～2月4日）の尿素国際相場は5週連続上昇した。中東、エジプト、アルジェリアおよび東南アジアのFOB 価格が400ドル/トンを突破し、CFR EU 地域価格がすでに420～425ドル/トンに上昇した。供給面では中国政府が尿素有輸出を引き続き厳しく規制することに加え、エジプトの Alexfert 尿素有工場が突発事故で停止し、マレーシアペトロナスのビントゥル工場とグルン工場がメンテナンスと事故で停止している。また、イランでは尿素有工場が季節的なガス転換により稼働率が大幅に低下している。需要面ではアメリカ、EU、オーストラリア、東南アジアなどが春シーズンのために尿素有需要が高まって、バイヤーは世界中に尿素有買い集める動きが活発してきた。需要と供給の不均衡で、年初から尿素有国際相場がすでに20%も上昇した。

大手各社の営業業績

肥料資源の探索と肥料プラント新規建設

- * インドネシア Pupik 社はスマトラ島南部 Kota Palembang 市にある PT Pusri 工業団地に計画されている PUSRI-IIIB アンモニアと尿素有プロジェクトは建設工程を中国の五

環工程公司 (CNCEC) とインドネシアの ADHI 社のジョイントに発注することを発表した。当該プロジェクトは生産能力 1350 トン/日アンモニア、2750 トン/尿素、年間アンモニア 44.55 万トン、尿素 90.75 万トンを生産する。建設費用 6.3 億ドル、建設期間 40 か月と計画している。

その他

* アメリカ政府の国際貿易委員会 (ITC) はモロッコ産りん安に対するダンピング決定を取り消す可能性が出てきた。2021 年、ITC は Mosaic 社からの申請でモロッコとロシア産りん安が政府補助金を得て、廉売している疑いがあり、アメリカ国内の肥料産業に大きな損害を与える可能性があるとして裁定した。その後、アメリカ商務省がモロッコ OCP 社のりん安に対して 19.97%、ロシア Phosagro 社のりん安に対して 9.19%のアンチダンピング関税を徴収することになった。

しかし、2022 年 9 月にアメリカ国際商業裁判所はモロッコ産りん安の政府補助金を受けている証拠が不十分との判決が出て、アメリカ商務省は 11 月にモロッコ産りん安に対して 2.12%、ロシア産りん安に対して 28.5%のアンチダンピング関税に変更した。OCP 社が不服して引き続き上告し、ITC は再調査を決定した。なお、2021 年アンチダンピング関税を徴収してからモロッコ OCP 社はアメリカへのりん安輸出を完全に中止した。

* サウジアラビアの Ma'aden 社の発表によれば、Ma'aden 社は 2023 年に 61.4 万トンブルーアンモニアを生産したことによって、国際評価機関 DNV に世界最大の超低炭素アンモニア生産者として認定された。

* スウェーデンの Cinis Fertilizer 社は日本の伊藤忠商事と組んで、アジアでの肥料事業を展開する基本合意書を締結し、アジア地域で環境に優しい鉍物肥料を生産するために協力する予定である。両社は、Cinis Fertilizer 社の製品である硫酸加里と塩化加里の販売、ならびに Cinis Fertilizer 社の生産に使用される塩化加里と硫酸ナトリウムの購入に関して協力するほか、アジア地域に硫酸加里などの生産施設の立地を探すことも含まれている。

* イギリスの Agricultural Industries Confederation (農業産業連合会、AIC) は農家に対して、尿素肥料を散布する際に必ずアンモニア化成抑制剤を使用すると喚起した。イギリス政府は大気汚染に関する環境規制を強化して、今年 4 月から肥料のアンモニア排出量の大幅な削減を要求する。この規制に対応するために、農業供給業界と農業組合が協力して農家と生産者に注意喚起している。その最も重要な対策は尿素を含む固形肥料と液体肥料を使用する際に必ずアンモニア化成抑制剤を使用することである。

* 中国の2023年11月から尿素輸出を厳しく規制する動きに対応して、韓国が中国以外の地域から尿素を購入し、備蓄を増やすことに動き出した。

尿素はディーゼルエンジンに使うアドブルーの原料で、韓国は尿素の9割以上が中国からの輸出に依存している。2021年10月15日、中国政府は化学肥料の輸出を規制するために「法定検査」制度を導入して、尿素をはじめ化学肥料の輸出が急ブレーキにかかったため、韓国が日本とベトナムに尿素の支援を求める緊急状態が発生した前科がある。このような不慮事態の発生を抑えるために韓国政府は国内企業が中国以外の国から尿素を輸入する際に補助金を出し、財政支援を行うことを検討している。現在、政府のアドブルー用尿素備蓄量約3000トンしかない。韓国政府はサウジアラビアなどから尿素を輸入して、備蓄量を1.2万トンに増やすことを計画している。

* アメリカ農務省は「アメリカのための農村エネルギープログラム (REAP)」と「肥料生産拡大プログラム (FPEP)」に選ばれるプロジェクトに対し、42の州に2億700万ドルを交付していると発表した。農務省のトム・ヴィルサック長官は、この投資が光熱費の削減、新たな産業の創出、雇用の創出、アメリカ農家、牧場主、農業生産者の競争強化を目的とすると述べた。アメリカ政府はすでに商品金融公社 (CCC) を通じて FPEP (肥料生産拡大プログラム) に最大9億ドルを拠出した。

* ベトナムからの報道によれば、ベトナム政府財務省が化学肥料に対して5%の増徴税を徴収することを企画している。現行の税法では、化学肥料は非課税の項目に入っているが、課税項目に移す目的は主に2つがある。一つは増徴税の導入により化学肥料メーカーの生産コストと利益率が透明化され、脱税が難しくなる。もう一つは化学肥料の輸入関税が非常に低いまたは非課税で、増徴税の導入により輸入化学肥料の国産化学肥料との価格競争に優位に立つ現状を打破し、国内化学肥料産業の健全な成長を促す一方、国の税収増加にもつながるといふ。

* アメリカ環境保護庁 (EPA) は Wabash Carbon Services 社がインディアナ州バーミリオン郡とビーゴ郡に二酸化炭素を地下に注入して永久貯蔵するための2つの井戸の建設を許可した。これらの井戸は地下約1500m以下の岩石層までに掘り、化学肥料の生産工程に発生した二酸化炭素を大気中に放出する前に回収して貯蔵し、気候変動の一因となる排出量を削減するために使用される。計画では12年間を渡って、年間最大167万トン二酸化炭素を圧入して、貯蔵する。